

質問

50代の男性です。健康診断の腫瘍マーカー検査で要再検査と言われました。この検査とがんとはどのような関係があるのでしょうか。



高松 典通

徳島大学病院
診療支援部長

答え

腫瘍マーカーは、がんの存在を示す目印（マーカー）になり得るものの総称です。主に、がん細胞がつくる特徴的な物質が目印として用いられ、その物質が増えたときにがんの存在を疑います。腫

腫瘍マーカー検査とがんの関係

瘍マーカーは主に血液で測定しますが、尿などで調べるものもあります。

腫瘍マーカーの検査は、がんの診断補助として用いられますし、治療が始まってからは、測定値の変化により治療効果を見ます。腫瘍マーカーの値が下がれば治療効果が表れていると判断し、上がり続けるようであれば治療法の見直しを行います。治療後も、定期的

に測定して測定値の推移により再発がないかを見ます。腫瘍マーカーには多くの種類があり、全身のさまざまながんが検査の対象となります。どこにできたがんかを特定できる「臓器特異性」が高いマーカーとして、例えば前

立腺がんのマーカー「PSA」や、肝がんのマーカー「AFP」「PIV-KA-II」などがあります。

一方、特異性の低いマーカーとして「がん胎児性抗原」があり、胃がん、大腸がんのほか、肺がんや乳がんなどでも高くなります。幾つもの臓器のがんについて一度に調べられる半面、がんの存在が疑われても、どこにがんがあるかは分かりません。

このようなときは、いくつかのマーカーを組み合わせて検査することで疑わしい部位をある程度絞り込むことができます。また、CTやMRI、内視鏡や超音波などの画像検査で詳しく調べます。

がんの確定診断には、原則として組織を採取して顕微鏡で調べる「生検」が行われます。

がんの診断のために行われる腫瘍マーカー検査の結果は、健康な人の検査値を基にした基準値と比較して判定します。基準値を超えた場合は陽性

としますが、陽性と判定されても、がんではないこともあります。良性疾患や感染症、体調、喫煙などの影響で高くなる偽陽性もあるからです。逆に、がんがあっても腫瘍マーカーの値が高くない偽陰性もあります。

質問については、再度検査を行い、連続して異常と判定された場合は、がん診療の専門病院を受診して精密検査を受けることをお勧めします。

質問募集

がんに関する質問は、徳島がん対策センターへ

電話088(633)9438(平日午前8時半〜午後5時)にお寄せください。
http://www.toku-gantaisaku.jp/でも受け付けます。

発見のための診断補助